

開設母体

要件
専門科目(言語学分野)

専門科目(言語学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DT411	日本語文法研究(1A)	1	1.5	1 - 5					日本語の意味論・語用論における、主として1980年代~現在までの研究からいくつかのトピックを選び検討・議論する。初回受講者の希望にもよるが、導入としては有田節子2015を取り上げる予定。	2021年度より4年おき開講。
02DT412	日本語文法研究(1B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語・古典日本語の意味論・語用論におけるトピックを、史的变化にも留意しながら検討する。初回受講者の希望にもよるが、導入としては衣畑智秀2014を扱う予定。	2021年度より4年おき開講。
02DT413	日本語文法研究(2A)	1	1.5	1 - 5					日本語の意味論・語用論的研究の方法論について、具体的なケースワークの中で検討する。受講者の希望にもよるが、導入としては本多啓2016と関連論文を読む。	2022年度より4年おき開講。
02DT414	日本語文法研究(2B)	1	1.5	1 - 5					古典日本語を含む、日本語文法論の検討。受講者の希望にもよるが、導入としては金水2015とその周辺論文を読む予定。	2022年度より4年おき開講。
02DT415	日本語文法研究(3A)	1	1.5	1 - 5					現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT416	日本語文法研究(3B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT417	日本語文法研究(4A)	1	1.5	1 - 5					日本語意味論・語用論に関する動向を検討し、いくつかのトピックについて論考の検討・解説を行う。可能な範囲で他言語との対照も視野に含める。	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT418	日本語文法研究(4B)	1	1.5	1 - 5					日本語意味論・語用論における近年の論考を、方言・古典語等も視野に入れながら検討する。導入としては青木博史編2011所収の論文を検討する予定。	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT419	日本語文法研究(5A)	1	1.5	1 - 5					現代日本語の主として意味論・語用論・語彙論についての研究動向と研究課題について検討する。受講者による発表も行う。	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT420	日本語文法研究(5B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語、古典日本語の意味論・語用論について、研究史を含めて検討する。受講者による発表も行う。	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。 オンライン(同時双方向型)
02DT441	現代日本語研究(1A)	1	1.5	1 - 5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。この授業は、言語学的な追求とともに、それが現在の社会的な課題を解決するのにどのように寄与するのかについての検討も行う。	2021年度より4年おき開講。
02DT442	現代日本語研究(1B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。表現や理解に関わる複合な現象について、日本語学の観点から検討する。この授業では、従来の言語学的知見が、このような課題に対しどのように寄与するか、また、解決のためにどのような研究が望まれているのか等、複合的融合的課題を解決するための言語学的アプローチとは何かを考えていく。	2021年度より4年おき開講。
02DT443	現代日本語研究(2A)	1	1.5	1 - 5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。言語学的な追求と社会的な課題解決との関わりについて検討する。	2022年度より4年おき開講。
02DT444	現代日本語研究(2B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。表現や理解に関わる複合な現象について、日本語学の観点から検討する。従来の言語学的知見が、このような課題に対しどのように寄与するか、また、解決のためにどのような研究が望まれているのか等、複合的融合的観点から検討する。	2022年度より4年おき開講。
02DT445	現代日本語研究(3A)	1	1.5	1 - 5					現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するとともに、言語教育分野における課題と言語研究との関わりについて検討していく。	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT446	現代日本語研究(3B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法教育と文法研究との関わりについて検討していく。	2023年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT447	現代日本語研究(4A)	1	1.5	1 - 5					現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに、文法研究と語彙研究との関わりについて検討していく。	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT448	現代日本語研究(4B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法情報と語彙情報の辞書における記述について検討していく。	2019年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT449	現代日本語研究(5A)	1	1.5	1 - 5					現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに、外国語との対照について検討していく。	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。
02DT450	現代日本語研究(5B)	1	1.5	1 - 5					現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法研究の翻訳論への寄与について検討していく。	2020年度より4年おき開講。 2023年度開講せず。 オンライン(同時双方向型)

02DT470	日本語学特講(1)	1	1.0	1 - 5					社会言語学的な言語調査の方法論をテーマとする。質問調査法とコーパス検索法を中心にして、いろいろなテーマで言語調査を企画するときはどういう点に配慮すればいいか、受講者と一緒に考えたい。	2021年度より4年おき開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT474	日本語学特講(5)	1	1.0	1 - 5						2020年度より4年おき開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT521	英語意味論演習(1A)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知と構文の意味機能の関係を扱った論文を中心に行なう。	2021年度より4年おき開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT522	英語意味論演習(1B)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、言語使用と構文の意味機能の関係を扱った論文を中心に行なう。	2021年度より4年おき開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT523	英語意味論演習(2A)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。	2022年度より4年おき開講。
02DT524	英語意味論演習(2B)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。	2022年度より4年おき開講。
02DT525	英語意味論演習(3A)	2	1.5	1 - 5	春ABC	木4	人社A206	和田 尚明, 金谷 優, 小野 雄一	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。	2023年度より4年おき開講。
02DT526	英語意味論演習(3B)	2	1.5	1 - 5	秋ABC	木4	人社A206	和田 尚明, 金谷 優, 小野 雄一	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。	2023年度より4年おき開講。
02DT527	英語意味論演習(4A)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。	2019年度より4年おき開講。
02DT528	英語意味論演習(4B)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。	2019年度より4年おき開講。
02DT529	英語意味論演習(5A)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、言語と認知の関係を扱った論文を中心に行なう。	2020年度より4年おき開講。
02DT530	英語意味論演習(5B)	2	1.5	1 - 5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、文法と言語使用の関係を扱った論文を中心に行なう。	2020年度より4年おき開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT531	英語統語論演習(1A)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、情報構造に関する論文を中心に行なう。	2021年度より4年おき開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT532	英語統語論演習(1B)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、カートグラフィ理論に関する論文を中心に行なう。	2021年度より4年おき開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT533	英語統語論演習(2A)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、併合に関する論文を中心に行なう。	2022年度より4年おき開講。
02DT534	英語統語論演習(2B)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、ラベリングに関する論文を中心に行なう。	2022年度より4年おき開講。

02DT535	英語統語論演習 (3A)	2	1.5	1 - 5	春ABC	木5	人社 A206	島田 雅晴, 加賀 信広, 小野 雄一	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、関係節に関する論文を中心に行なう。	2023年度より4年おき開講。
02DT536	英語統語論演習 (3B)	2	1.5	1 - 5	秋ABC	木5	人社 A206	島田 雅晴, 加賀 信広, 小野 雄一	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、数量表現に関する論文を中心に行なう。	2023年度より4年おき開講。
02DT537	英語統語論演習 (4A)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、統語論と形態論の関係に関する論文を中心に行なう。	2019年度より4年おき開講。
02DT538	英語統語論演習 (4B)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、インターフェイスに関する論文を中心に行なう。	2019年度より4年おき開講。
02DT539	英語統語論演習 (5A)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、品詞論に関する論文を中心に行なう。	2020年度より4年おき開講。
02DT540	英語統語論演習 (5B)	2	1.5	1 - 5					生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、修飾構造に関する論文を中心に行なう。	2020年度より4年おき開講。 オンライン (同時双方向型)
02DT541	英語学特講 (1A)	1	1.5	1 - 5					英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎力の充実および発信力の強化を図る。	2021/4/8 開講中止決定 2021年度より4年おき開講。
02DT542	英語学特講 (1B)	1	1.5	1 - 5					英語学の文献を教材として用いながら、特に修士論文執筆前の院生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の強化を図る。	2021/4/8 開講中止決定 2021年度より4年おき開講。
02DT543	英語学特講 (2A)	1	1.5	1 - 5					英語学研究を進めるうえで必要な基礎知識、英語表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎力の充実および実践的な発信力の強化を図る。	2022年度より4年おき開講。
02DT544	英語学特講 (2B)	1	1.5	1 - 5					英語で書かれた認知言語学の文献の輪読を通して、修士論文執筆前の院生が、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。	2022年度より4年おき開講。
02DT545	英語学特講 (3A)	1	1.5	1 - 5	春ABC	木3	人社 A206		英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎的な表現力・発信力の充実を図る。	2023年度より4年おき開講。
02DT546	英語学特講 (3B)	1	1.5	1 - 5	秋ABC	木3	人社 A206		英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆以前の大学院生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の強化を図る。	2023年度より4年おき開講。
02DT547	英語学特講 (4A)	1	1.5	1 - 5					英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、表現力・発信力の充実を図る。	2019年度より4年おき開講。
02DT548	英語学特講 (4B)	1	1.5	1 - 5					英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の段階の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力・言語分析力の充実を図る。	2019年度より4年おき開講。
02DT549	英語学特講 (5A)	1	1.5	1 - 5					英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、考えをまとめて発信する能力の充実を図る。	文芸・言語専攻英語学領域2年生に履修を制限する。 2020年度より4年おき開講。
02DT550	英語学特講 (5B)	1	1.5	1 - 5					英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力と問題解決への応用力の強化を図る。	文芸・言語専攻英語学領域2年生に履修を制限する。 2020年度より4年おき開講。 オンライン (同時双方向型)
02DT821	国際発表実習Ⅰ (言語学)	3	1.0	1 - 5	通年	応談		佐野 隆弥	言語学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。

02DT822	国際発表実習Ⅱ(言語学)	3	1.0	1 - 5	通年	応談		佐野 隆弥	言語学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。
02DT823	国際発表実習Ⅲ(言語学)	3	1.0	1 - 5	通年	応談		佐野 隆弥	言語学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。
02DT901	歴史言語学A	1	1.0	1・2	春AB	火5	1C401	池田 潤	世界のさまざまな言語を例に、伝統的な歴史言語学の方法論の基礎を学ぶ。具体的には、(1)歴史言語学の研究史、(2)音法則[概論]、(3)音法則[合流と分裂]、(4)音法則[同化]、(5)音法則[弱化]、(6)音法則[その他の変化]、(7)借用、(8)類推、(9)内的再建、(10)比較による祖語の再建を論じる。毎回の授業では講義を行った上で、それをふまえて受講生が自ら例題を通時的に分析してみることににより、言語変化の諸相、規則性、要因等に対する理解を深めていく。	西暦奇数年度開講。 OABAG10と同一。 対面
02DT902	歴史言語学B	1	1.0	1・2					世界の様々な言語の事例を観察しながら、形態変化、統語変化、言語接触などのテーマを中心に、歴史言語学の基礎を学ぶ。	西暦偶数年度開講。 OABAG11と同一。 2023年度開講せず。 対面 状況によってはオンラインに変更する可能性がある。
02DT903	生成統語論A	2	1.0	1・2					チョムスキーに始まり「普遍文法」を視野にいれた生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に句構造、形式素性、移動現象にかかわる問題に焦点をあてる。	西暦偶数年度開講。 OABAG12と同一。
02DT904	生成統語論B	2	1.0	1・2					チョムスキーに始まり「普遍文法」を視野にいれた生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に構造格、束縛とコントロール、省略現象にかかわる問題に焦点をあてる。	西暦偶数年度開講。 OABAG13と同一。 オンライン(オンデマンド型)
02DT905	認知意味論A	2	1.0	1・2	春AB	月3		金谷 優, 和田 尚明	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論の観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるとときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、言語と認知の関係に関わる様々な語彙・構文現象に焦点をあてる。	西暦奇数年度開講。 OABAG14と同一。 対面 人社A520
02DT906	認知意味論B	2	1.0	1・2	秋AB	月3		和田 尚明, 金谷 優	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論の観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるとときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、文法と語用論の関係や言語使用に関わる様々な言語現象に焦点をあてる。	西暦奇数年度開講。 OABAG15と同一。 対面 人社棟A520
02DT907	対照言語学A	1	1.0	1・2	春AB	木6	1B402	宮腰 幸一	このコースは、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目標とする。まず、主に日本語と英語の身近な具体例を出発点に、いくつかの事例研究の概観・検討を通して対照言語学の射程・目標・方法・意義・成果などを学びながら、受講者それぞれが自分のテーマで対照言語学的研究を試み、実践的な観察・分析・実証・立論能力を養う。その後、各受講者に研究成果を順番に発表してもらい、その内容についてクラス全員で議論する。基本的に、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進めるが、その割合は受講者の希望や進展状況に応じて調整する。	OABAG16と同一。 対面
02DT908	対照言語学B	1	1.0	1・2	秋AB	木6	1B402	宮腰 幸一	春学期の対照言語学Aに引き続き、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目指し、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進める。	OABAG17と同一。 対面

02DT909	音韻論A	1	1.0	1・2					言語の音声・音韻に関する研究について理解するうえで必要とされる基礎的な知識および観点を身につけることを目標とする。記述・理論にわたる音韻論の基礎的な概念および知見について、講義を通じて理解を深めるとともに、日本語を中心とする音韻現象の分析事例を学びながら、音韻研究の方法についての理解を図る。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討議を通じて合理的な音韻分析のあり方について考察する。	西暦偶数年度開講。 OABAG20と同一。 対面 対面を原則とするが、状況次第でオンライン（同時双方向）に変更することもある。
02DT910	音韻論B	1	1.0	1・2					音韻論の基礎的な事項の理解に基づいて音韻分析の手法を身につけることを目標とする。講義を通じて理解を深めるとともに、日本語を中心とする分節現象・韻律現象の分析事例を学びながら、音韻論的考察の方法について理解を深める。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討議を通じて合理的な音韻分析・韻律分析のあり方について考察する。	西暦偶数年度開講。 OABAG21と同一。 対面 対面を原則とするが、状況次第でオンライン（同時双方向）に変更することもある。
02DT911	形態論A	1	1.0	1・2	春AB	火4		田川 拓海	屈折形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るときに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同形性、補充、ゼロ形態等、屈折形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAG22と同一。 対面 人社A520
02DT912	形態論B	1	1.0	1・2	秋AB	火4		田川 拓海	複合を含む派生形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るときに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同音異義性・類義性・多義性、阻止、項構造等、派生形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAG23と同一。 対面 人社A520
02DT913	音声学A	1	1.0	1・2	春AB	木6	人社A207	黄 賢暲	音声学・韻律に関する実験研究を紹介する。	西暦奇数年度開講。 OABAG24と同一。 対面
02DT914	音声学B	1	1.0	1－5	秋AB	木3	人社A207	黄 賢暲	音声学と他の言語学の分野とのインターフェースに注目し音声研究を行う。	西暦奇数年度開講。 OABAG25と同一。 対面
02DT921	日本語文法論IA	1	1.0	1・2					現代日本語文法の文法カテゴリーについて、これまでの研究を踏まえ、さらにどのような課題があるか考察し、現代日本語文法の諸現象に関して、課題発見型のアプローチを行う能力を身につける。	西暦偶数年度開講。 OABAG30と同一。 オンライン（同時双方向型）
02DT922	日本語文法論IB	1	1.0	1・2					現代日本語文法と言語の機能などがどのように関わるか、複合的な観点と応用的な観点から考察し、現代日本語の文法について様々な角度から、課題解決型のアプローチを行う能力を身につける。	西暦偶数年度開講。 OABAG31と同一。 オンライン（同時双方向型）
02DT923	日本語文法論IIA	1	1.0	1・2	春AB	金2	人社A201	橋本 修, 杉本 武, 石田 尊	日本語文法の記述的研究の方法論について学ぶとともに、理論的研究との関わりについて考察し、日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深める。	西暦奇数年度開講。 OABAG32と同一。 対面
02DT924	日本語文法論IIB	2	1.0	1・2	秋AB	金2	人社A201	橋本 修, 杉本 武, 石田 尊	現代日本語文法の諸現象に関する受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学び、データを観察、記述する能力を養う。具体的には、文法の記述と内省やコーパスの関係について考察した上で、格、ヴォイス、テンス・アスペクト、修飾、とりたて、複文、モダリティなどの文法現象の中から課題を取り出し、それぞれの記述に関わる問題を明らかにした上で、受講者が設定した研究課題に関して議論を行う。	西暦奇数年度開講。 OABAG33と同一。 対面 対面授業となった場合は人社A201
02DT925	日本語意味論A	1	1.0	1・2					現代日本語の動詞（空間に関わる動詞群）を対象に、コーパス等を用いながら、用例収集、用例分析を行い、動詞の意味を含む語彙的特性の記述し、文法と関わりを考察する。これによって、用例収集、用例分析の方法論を学ぶ。具体的には、意味全般、語彙の意味と文法の意味を含む語の意味の捉え方について概観した上で、空間表現と、存在、移動、移動様態などの空間に関わる動詞群の分析をコーパスの用例などから行う。	西暦偶数年度開講。 OABAG36と同一。 オンライン（同時双方向型） 状況により対面の可能性もある

02DT926	日本語意味論B	1	1.0	1・2					現代日本語の動詞(働きかけ、変化などに関わる動詞群)を対象に、コーパス等を用いながら、用例収集、用例分析を行い、動詞の意味を含む語彙的特性の記述し、文法と関わりを考察する。これによって、用例収集、用例分析の方法論を学ぶ。具体的には、接触・打撃、状態変化などを表す動詞群の分析をコーパスの用例などから行った上で、意味と文法の関係について考察する。	西暦偶数年度開講。 OABAG37と同一。 オンライン(同時双方向型) 状況により対面の可能性もある
02DT927	日本語談話論A	1	1.0	1・2	春AB	金4		澤田 浩子	本科目は、日本語の談話(話し言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的な概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「発話行為」「語りの構造」「会話の開始と終結」「スタイルシフト」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9, 10回)。	西暦奇数年度開講。 OABAG40と同一。 対面
02DT928	日本語談話論B	1	1.0	1・2	秋AB	金4		澤田 浩子	本科目は、日本語の談話(書き言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的な概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「ジャンル」「文体」「結束性」「コロケーション」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9, 10回)。	西暦奇数年度開講。 OABAG41と同一。 対面
02DT929	古典日本語学A	1	1.0	1・2					文献資料から日本語史をたどり、古典日本語、特に中世・近世の日本語を考察する。具体的には江戸期刊行の版本狂言記(万治三(1660)年刊行)を講読し、狂言という芸能の言語を通して、古典日本語について考察する。日本語史上の中世・近世の位置付けからスタートし、狂言の歴史を映像を使って確認したうえで、版本のコピーを実際に読み解き、文献資料の扱い方、語学的な問題のとらえ方、狂言という芸能に関する知識など、日本語史研究のための基本的な事項も確認する。	西暦偶数年度開講。 OABAG44と同一。 対面 状況次第でオンラインの可能性もある
02DT930	古典日本語学B	1	1.0	1・2					日本語史の資料としての狂言台本の価値を考え、あらためて中世から近世への日本語の変遷との関わりを確認する。狂言や古典芸能の基礎知識をふまえて、江戸期の版本狂言記と諸流派の狂言台本の詞章を詳しく比較していく。可能な場合は実演映像も含めて、詞章の異同を検証し日本語史上の問題としてどのように捉えるべきか、具体例から考えていく。受講者にも諸台本の読み比べを行ってもらい、様々な観点から言語事象を捉える練習とする。	西暦偶数年度開講。 OABAG45と同一。 対面
02DT941	英語統語論A	2	1.0	1・2	春AB	月4		島田 雅晴, 加賀 信広, 山村 崇斗	近年の英語統語論は生成文法理論の下で発展してきており、その考え方や研究方法はこれから言語研究を学ぶ者には基本となるものである。また、英語で書かれた著作を深く理解し、自分の考えを英語で発信していくための英語力も必須である。このような考えのもと、この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。具体的には、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介し、全員でディスカッションを行う。中心テーマは「機能語・機能範疇」とする。	西暦奇数年度開講。 OABAG50と同一。 対面 人社棟A520
02DT942	英語統語論B	2	1.0	1・2	秋AB	月4		島田 雅晴, 加賀 信広, 山村 崇斗	近年の英語統語論は生成文法理論の下で発展してきており、その考え方や研究方法はこれから言語研究を学ぶ者には基本となるものである。また、英語で書かれた著作を深く理解し、自分の考えを英語で発信していくための英語力も必須である。このような考えのもと、この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。具体的には、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介し、全員でディスカッションを行う。中心テーマは「英語と他言語との比較」とする。	西暦奇数年度開講。 OABAG51と同一。 対面 人社棟A520

02DT943	英語意味論 A	2	1.0	1・2					認知言語学や構文文法を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、形式と意味機能の対応関係や認知と比喩の関係を中心に扱い、主観性に基づく意味論を基にした分析方法について考察する。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。	西暦偶数年度開講。 OABAG54と同一。 対面
02DT944	英語意味論B	2	1.0	1・2					語用論研究や言語使用に関する日英語比較を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味・語用論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、語用論・言語使用と意味機能の関係を扱い、代表的な意味論・語用論に関する理論についても触れる。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。	西暦偶数年度開講。 OABAG55と同一。 対面
02DT951	ドイツ語学A	2	1.0	1・2					現代ドイツ語の特徴を、語彙、文法ならびに語史の観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行う。	西暦偶数年度開講。 OABAG66と同一。 2023年度開講せず。 対面
02DT952	ドイツ語学B	2	1.0	1・2					現代ドイツ語の特徴を、意味論的ならびに語用論的な観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行うことになる。	西暦偶数年度開講。 OABAG67と同一。 2023年度開講せず。 対面
02DT961	中国語学A	1	1.0	1・2					中国語の文法研究に関する優れた論文を演習形式で読み進めながら、中国語の諸現象について考える。文法現象に表れた中国語の事態把握の特徴を他言語（主に日本語）との対照を通して検討する。中国各地の方言データも取り上げながら、標準語のみを対象とする従来の文法研究が看過してきた特徴を明らかにする。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法や分析手順を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦偶数年度開講。 OABAG70と同一。 2023年度開講せず。 対面
02DT962	中国語学B	2	1.0	1・2					中国語文法研究をおこなううえで、必ず通読し理解しておくべき基礎文献を演習形式で読み進めていく。品詞分類、語順、主題、アスペクト、モダリティ、ヴォイス、ダイクシスなど中国語の個性が色濃く現れると思われるテーマを取り上げ、中国語文法研究に必要な最低限の知識を身に付けることを目指す。授業では、内容に対する正確な理解が求められるだけでなく、各自が批判的な視点を以て問題点・疑問点を見つけ出し、積極的に議論に参加することが求められる。	西暦偶数年度開講。 OABAG71と同一。 2023年度開講せず。 対面
02DT965	韓国語学A	2	1.0	1・2	春AB	木2		金 仁和	現代韓国語の先行研究を熟読して、その問題点や課題を論議することで、現代韓国語の特徴を把握する。音韻、形態構造、語彙、文法、表現、統語などの言語分析の諸分野だけに限らず、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションなどの言語運用の諸分野まで、現代韓国語が持っている個性を概論的に考察する。 また、日本語との対照を通して、言語の普遍性と個性をより深く理解する。主テーマになる分野は、各年度別に選定する。	西暦奇数年度開講。 OABAG76と同一。 対面
02DT966	韓国語学B	2	1.0	1・2	秋AB	木2		金 仁和	言語表現の分析には、その表現がどのような「視点」を取りながら意味を表しているのかを考察する方法もある。例えば、日本語は話者・聴者・主体との関係で表現のスピーチレベルが決められる。反面、韓国語は話者と他者との関係でスピーチレベルが決められる。つまり、敬語表現において、日本語は移動的視点を持ち、韓国語は固定的視点を持っていると言える。現代韓国語の時制・指示・授受・慣用表現・あいさつことばなどの表現類型から見られる視点を考察する。また、「感情・主観」の介入程度により視点がどのように変化するのかを、対象になる表現の意味を具体的に分類しながら調べる。主テーマになる表現類型は、各年度別に選定する。	西暦奇数年度開講。 OABAG77と同一。 対面
02DT971	言語政策論A	1	1.0	1・2					ロシアや中央アジア諸国などの多民族・多言語社会を事例として、地位計画(言語の法的地位)、実体計画(標準語の整備)、普及計画(言語教育政策他)等の観点から各国の言語政策の現状と課題を検討・考察する。授業では、当該国の言語状況・言語政策に関する研究論文を取り上げ、論点を整理し、議論する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、言語政策研究の方法論や分析手法などについての理解も深める。	西暦偶数年度開講。 OABAG80と同一。

02DT972	言語政策論B	1	1.0	1・2					世界(特に旧ソ連・旧東欧地域)の多民族・多言語国家の言語状況や言語政策に関する研究事例を通して、多言語社会における言語政策の役割について考察する。その上で、比較という観点から日本社会の言語状況・言語政策の実情と課題について検討する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、社会に貢献する言語政策研究の研究対象としての新たな可能性を探索する。	西暦偶数年度開講。 OABAG81と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DT973	国語教育学A	1	1.0	1・2					言語研究(主として日本語研究)と言語教育(主として国語教育)との目的や方法論の違いを理解した上で、グローバル社会・情報化社会に対応する国語教育学を展開させていくために必要な日本語学的な素養や言語学的観点を身につけることを目的とする。まず講義を通して、言語研究と言語教育、国語教育と日本語教育との目的や方法論の違いについて、文法論・語彙論・待遇表現論・コミュニケーション論などの分野を例に、言語研究の成果がどのように国語教育へ応用されてきたかを把握した上で、演習形式で、グローバル社会・情報化社会に必要とされる論理展開力の育成やアイデンティティ・共感力の育成のために、母語教育にはどのような観点が必要とされるか、また日本語研究はどのようにそれを支援できるかについて検討していく。	西暦奇数年度開講。 OABAG84と同一。 2023年度開講せず。
02DT974	国語教育学B	1	1.0	1・2					日本語研究と国語(日本語)教育との関係に関わる比較的高度な知識を習得することで、両者の相互互恵的な関係を意識するとともに、これからのグローバル社会・情報化社会の母語教育において求められる言語分析力について深く洞察する知識と能力を身につけることを目的とする。まず、日本語の文法研究史・文法教育史の関わりについての概説を行い、各時代が何にために「言葉の説明」を求めたのか、日本語研究がそれにいかなる「文法論」を提供したのかについて検討を加える。これをふまえて、演習形式で、これからの多言語使用多文化理解社会へ向けて、母語教育は、初等教育から中等教育へ、母語から多言語へ、いかに連続させていくか、それにはいかなる言語分析能力の育成が求められるのか、それを支援するためにどのような言語情報提供ツールの開発が求められるのか等について検討していく。	西暦奇数年度開講。 OABAG85と同一。 2023年度開講せず。 オンライン(オンデマンド型)
02DT975	日本語教育学IA	2	1.0	1・2					日本語教育学分野の論文講読および発表者・受講生間の討論を通じ、クリティカルに物事を捉える基礎的な力を身につける。具体的には、「日本語教育方法の改善に役立つ実験・調査を行っている論文(日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。	西暦偶数年度開講。 OABAG90と同一。 オンライン(同時双方向型) 状況次第で対面に変更する可能性がある。
02DT976	日本語教育学IB	2	1.0	1・2					第二言語習得研究の観点から、日本語音声教育の理論と方法について考察する。また、学習者の発音の分析や、教材・教具の分析を行い、音声指導法について検討する。扱う素材は音声であるが、根底にあるものは「教育方法の追究」である。さまざまな知識を統合して、広い視野から「学習が起こるための支援」はどうあるべきかを考えていきたい。	西暦偶数年度開講。 OABAG91と同一。 オンライン(同時双方向型) 状況次第で対面に変更する可能性がある。
02DT977	日本語教育学IIA	2	1.0	1・2	秋AB	火6		松崎 寛	「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文(日本語)」をとりあげ、その方法論上の疑問点や、推論の妥当性について全員で討議する。この授業を通して受講生は、日本語音声教育に関する知識を得るとともに、論文を批判的に検討するための方法論を学ぶことができる。	西暦奇数年度開講。 OABAG92と同一。 対面
02DT978	日本語教育学IIB	2	1.0	1・2					日本語教育方法の改善に役立つと思われる論文を取り上げ、方法論上の問題点や、推論の妥当性について全員で討議する。この授業を通して受講生は、日本語教育方法学に関する知識を得るとともに、論文を批判的に検討するための方法論を学ぶことができる。	西暦奇数年度開講。 OABAG93と同一。 2023年度開講せず。 対面授業の場合は人社A205
02DT979	外国語教育学A	2	1.0	1・2					本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤とした第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に母語の転移と普遍的知識へのアクセスなどを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABAG96と同一。 2023年度開講せず。
02DT980	外国語教育学B	2	1.0	1・2					本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤とした第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に研究手法やデータ収集の仕方に関心を当てる。	西暦偶数年度開講。 OABAG97と同一。 2023年度開講せず。 対面

02DT981	言語情報論A	2	1.0	1・2	春AB	火1	3C104	石田 尊, 和氣 愛 仁, 小野 雄一	言語研究を行うにあたって理解しておくべき ICT(情報コミュニケーション技術)の基礎的な知 識・技能の習得を目的とした演習を行う。	OABAGA0と同一。 対面 状況によってはオンラ イン(同時双方向)に 変更の可能性がある。
02DT982	言語情報論B	2	1.0	1・2	秋AB	火1	1C206	石田 尊, 和氣 愛 仁, 小野 雄一	言語研究をより深めるためのICT(情報コミュ ニケーション技術)活用法について、履修者の専門 分野・問題意識に基づいた実践的な演習を行う。	OABAGA1と同一。 対面 状況によってはオンラ イン(同時双方向)に 変更の可能性がある。